

第1回品川区地域福祉計画策定委員会

第2部グループ意見交換 主な意見

【テーマ】

- ご自身の活動や職務中に感じている地域に関する課題
- 自分が暮らしている（働いている）地域で気になる問題や、その解決提案等について

【多機関・多職種連携】

- ・縦割りのサポート体制でなく、全方位、包括的なサポートのまちづくりが求められている。高齢者支援の体制に、子どもや障害者分野のネットワークも入り、多職種連携ができると良い。
- ・専門職、非専門職の連携が必要。専門職も関わりづらい方、多問題を抱えている方への対応・解決策が必要。
- ・子ども（主に30～40代）のひきこもりの発見が困難。
- ・活動に参加していた人が最近来なくなった、など気になることがあった際に誰に、どこに相談すればよいか、わかるようにしてほしい。
- ・地域に関連する各団体・組織の活動が共有されていない。関連する方々と、お互いの活動や課題などを共有できる場がほしい。

【地域のつながりの再構築】

- ・専門職ではない方々の、ゆるやかな気づきの見守りネットワークがあると良い。地域資源と連動させる。
- ・地域にゆかりのない高齢者、若い方などは団体などに属さずに群れたがらない傾向が強い。
- ・地域のつながりが希薄化。昔は“おせっかい”という文化があった。
- ・町会について、固定観念を持つ人が多く、良いイメージに転換することが困難。
- ・地域における子どもの安全確保が必要。
- ・まちの中での関係づくりが大切。
- ・人材の確保（専門、ボランティアなど）が重要。
- ・顔の見える関係づくりによる見守りのほか、防犯カメラなど機械による見守りも犯罪の抑止になる。
- ・地域に古くから住んでいる方と転入者の共存や、外国人住民へのまちの活動のPR方法の検討が必要。
- ・障害者の理解が大切。近所に施設がある場合、批判や偏見だけでなく、どのような施設か理解すること、温かい目で見守る態勢になると良い。

【その他】

- 子育て世代の転入が増加中。住み続けてもらい、出生率を上げられるような取り組みも必要。
- 電車・バス内での席譲りについての解決策として、学生を中心に席を譲る気持ちのある人がバッチを付け、「譲ってほしい」と言われたら 100%譲る「席譲りの会」という活動がある。
- 個人情報の取り扱いについて、これまでの住所、名前、電話番号を収集する方法でなく、インターネット上での登録などによる情報発信・収集方法の検討が必要。それにより、情報を得たいときに収集でき、取得が不要と思えば自ら登録を解除することができるような自由な形態が現代に適している。
- 区内では再開発も進み、人口増加などどんどん変化している。地域の変化を読んで計画策定するべきである。